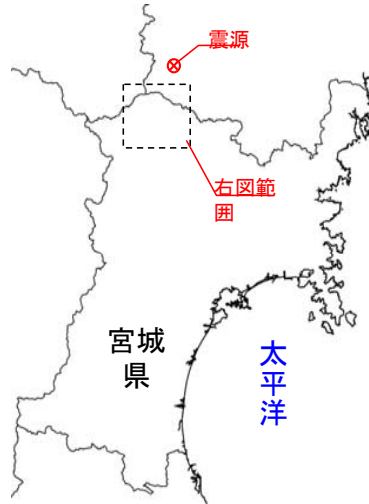
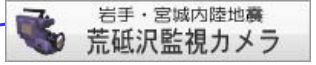
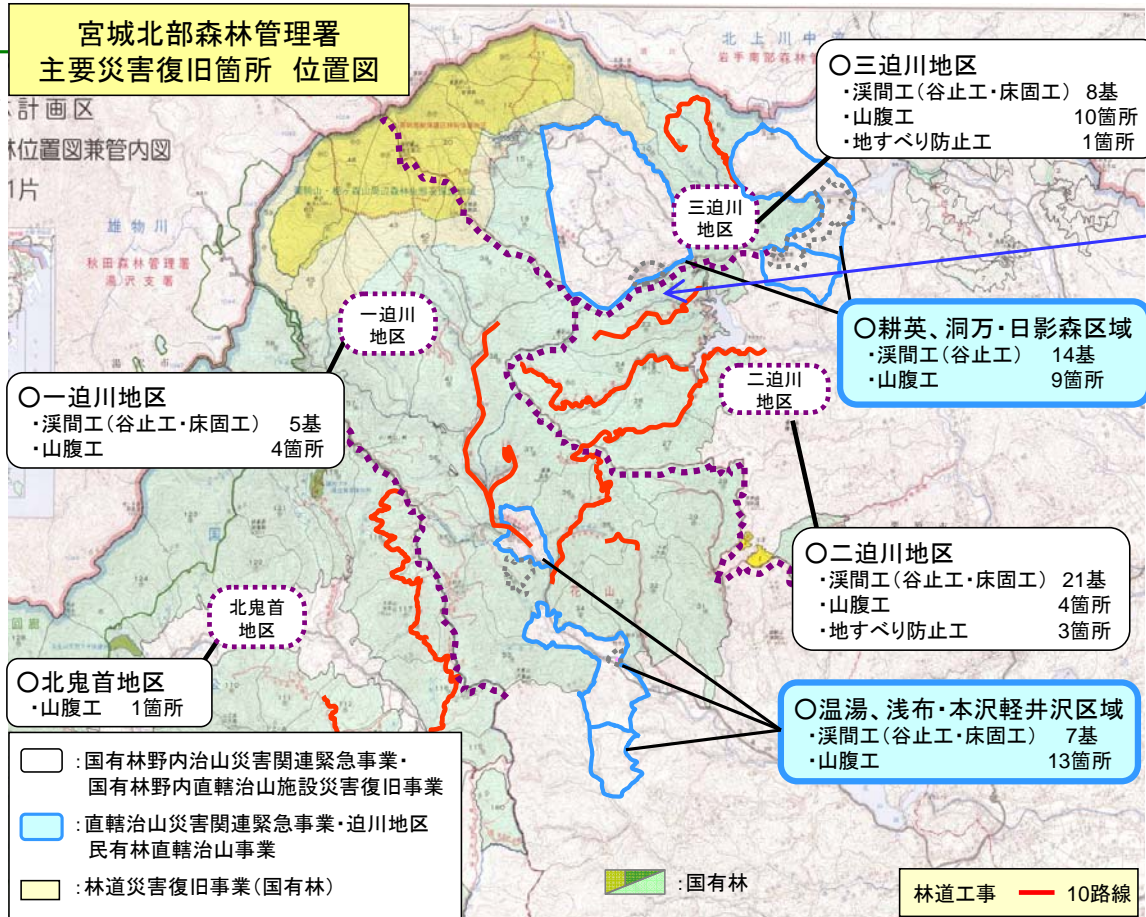


概要

平成20年岩手・宮城内陸地震による被災箇所のうち、平成22年度末までに国有林治山事業で溪間工34基、山腹工19箇所、地すべり対策工4箇所、民有林直轄治山事業で溪間工21基、山腹工22箇所、林道災害復旧事業で10路線を整備しました。平成23年度は、前年度からの継続箇所を含め、国有林治山事業で11件、民有林治山事業で15件の工事を行います。



岩手・宮城内陸地震の記録
2008年6月14日 午前8時43分頃発生
地震の規模 M7.2
最大震度 6強(宮城県栗原市、岩手県奥州市)
震源地 岩手県内陸南部
地震の深さ 約8km
山崩壊箇所 1,062箇所(宮城県内、H20東北森林管理局調べ)



荒砥沢地すべりに監視カメラを設置しています。東北森林管理局ホームページのトップページ左にある「岩手・宮城内陸地震荒砥沢監視カメラ」のバナーをクリックすると見ることができます。(http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/)



平成24年1月18日撮影

2011 栗原市産業まつりパネル展示の様子

被災地の復旧状況 (山腹工の事例)

本沢軽井沢Ⅱ(H22)治山工事

不安定な斜面を安定させ、移動性の高い残留土砂を固定させるため、コンクリート土留工を施工しました。併せて、丸太柵工及びむしろ伏工による山腹緑化工を施工し、斜面表土の流出の防止と早期の森林への回復を図っています。



本崩壊地は一迫川支流草木川上流に位置しています。下流には金沢集落、県道、市道等の重要な保全対象が存在します。被災時は崩壊地直下にある市道まで土砂が流出し、地域社会に多大な影響を及ぼしました。



平成22～23年度に復旧対策(土留工、山腹緑化工)を行いました。コンクリート土留工に使用した型枠と山腹緑化工に使用した丸太柵工には、木材の利用を促進させるため間伐材を使用しています。



平成23年10月29日、30日に栗原市で開催された「2011 栗原市産業まつり」の「震災・復旧コーナー」において、平成20年岩手・宮城内陸地震での、被災当時の状況と復旧対策の進捗状況等を紹介するパネル展示を行い、たくさんの地域の皆さんに見ていただきました。



平成23年度 工事施行箇所

実行中です

1 川台山  
【地すべり防止工(アンカー工、現場吹付法砕工)】



2 放森上流  
【山腹工(現場吹付法砕工)】  
型枠にモルタルを吹付けています。



3 日影森 I (H23)  
【溪間工(コンクリート谷止工)】  
コンクリート谷止工が出来ました。



完成しました

7 荒砥沢 【溪間工(8号鋼製柵床固工、5~6号鋼製柵流路工)】

平成23年12月撮影



地すべりにより移動堆積した土塊により溪流が閉塞され湛水地が形成されました。

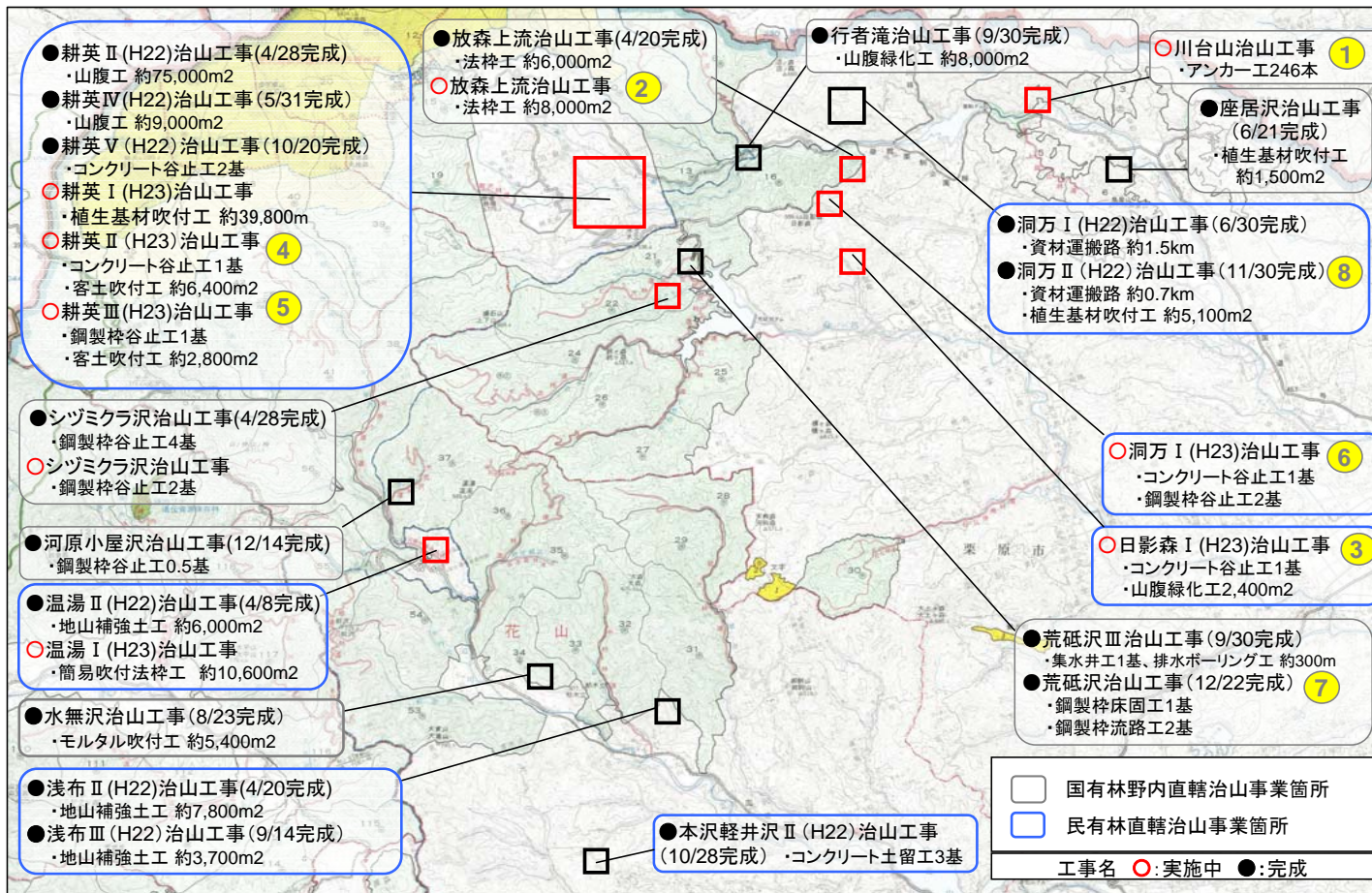
下流の荒砥沢ダム貯水池へ土砂が流出しないよう、湛水の解消と溪流に堆積した不安定な土砂の移動防止を目的に、鋼製柵床固工と鋼製柵流路工を設置しました。

8 洞万 II (H22) 【山腹工(大型カゴ砕工・山腹緑化工)】

平成23年11月撮影



地震により発生した山腹崩壊の拡大と不安定土砂の流出を防止するため、崩壊地の脚部を抑える大型カゴ砕工を設置しました。また、斜面の表土の侵食の防止と早期の森林への回復を図るため、山腹緑化工を行いました。



実行中です

4 耕英 II (H23)  
【山腹工(客土吹付工)】  
コンクリート谷止工が出来ました。



5 耕英 III (H23)  
【山腹工(カゴマット護岸工)】  
カゴマットを設置しています。



6 洞万 I (H23)  
【溪間工(コンクリート谷止工)】  
コンクリート谷止工が出来ました。



Legend for the map: 国有林野内直轄治山事業箇所 (National Forest Directly Managed Mountain Disaster Countermeasure Site), 民有林直轄治山事業箇所 (Private Forest Directly Managed Mountain Disaster Countermeasure Site), 工事名 ○: 実施中 ●: 完成